

平成 20 年度 海外派遣者選考委員会報告

1. 平成 20 年度海外派遣事業

(1) 派遣内容：

- a) イリノイ大学モートンソンセンター・アソシエイツ・プログラム(8週間)1名
- b) 諸外国の先進的な図書館活動、施設等に関する調査・研究 1名

(2) 財 源：田嶋記念大学図書館振興財団からの助成金及び国立大学図書館協会基金

(3) 派遣者選考：「海外派遣者選考委員会」で選考し、理事会に報告して決定

(4) 報 告：

平成 20 年度派遣者の事業参加報告書(別紙 1)のとおり。

また、「大学図書館研究」誌上に派遣成果を発表の予定

2. 平成 21 年度以降の海外派遣事業の検討

今回の海外派遣事業は、田嶋記念大学図書館振興財団からの助成金(平成 18 年度から 20 年度までの 3 年間)を主な財源として計画されたものであるが、海外経験は、図書館の国際化対応、人材育成のため、今後ますます重要な事業となることから、既に平成 18 年度から事業延長について検討を重ねているところである。

平成 20 年度は、9 月に人材委員会実施の「図書館職員の研修事業に関するアンケート調査」に海外派遣事業に関する設問を設け、長期派遣及び短期派遣に対する会員館の認知度、参加可能性、参加させられない理由、継続することへの意見、その他独自の海外研修機会の有無などについて、会員館の意見聴取を行なった。この結果、短期派遣は 80%の会員館が参加可能、長期派遣は参加可能が 37%に留まったが、「大学図書館界にとって必要な事業」とする意見が過半を占めた。これらに基づき、平成 20 年 10 月 17 日開催の理事会において、今後の事業実施を検討した結果、財源等に関する検討を継続することとし、平成 21 年度は長期派遣は休止すること、短期派遣のあり方について検討を加え、協会経常経費等をやり繰りのうえ、短期派遣を 2～3 名派遣に拡充しグループ派遣も可能とすることとした。

また、平成 18 年度からの 3 名の長期派遣者の活動実績(別紙 3)をまとめ、成果の還元状況等を確認した。

3. 平成 21 年度短期海外派遣事業

上記の理事会決定を受けて、「平成 21 年度短期海外派遣事業実施要項」を策定し、これまでの海外派遣事業の関係規程等を準用し、以下のとおり募集及び派遣者選考を実施した。

2008/10/17 理事会で海外派遣事業の継続を協議

H21 長期派遣は休止 短期派遣は 2-3 名

10/28 事務局から「平成 21 年度海外派遣事業実施要項(案)」を理事館回議

12/8 会長名で「平成 21 年度国立大学図書館協会海外派遣者の募集について」を会員館宛送付 (応募締切 1 月末)

- 2009/ 2/18 事務局より、海外派遣者選考委員会委員長宛、応募書類(2件)送付、
同日、海外派遣者選考委員会委員長が、海外派遣者審査専門委員会委員(3
名)を選考、専門委員を委嘱
- 2/27 海外派遣者審査専門委員会を開催
- 3/ 3 海外派遣者審査専門委員会主査から審査報告を海外派遣者選考委員会委員
長に提出
- 3/ 6 上記報告を海外派遣者選考委員会で、協議・了承
- 3/26 海外派遣者選考委員会委員長から、海外派遣者選考結果(別紙2)を報告

4. 委員名簿(平成21年3月の選考時点) : 委員長

野 家 啓 一 東北大学附属図書館長
北 村 明 久 東北大学附属図書館事務部長
藤 井 譲 治 京都大学附属図書館長
長 坂 みどり 京都大学附属図書館事務部長
田 中 久 男 広島大学図書館長
石 井 道 悦 広島大学図書館副館長

事務局：京都大学附属図書館

人材育成担当理事館：東北大学附属図書館、京都大学附属図書館、広島大学図書館

5. 参 考

- 「平成21年度短期海外派遣事業実施要項」(平成20年11月17日 理事会決定)
「海外派遣事業実施要項」(平成18年1月27日 理事会決定)等の諸規程

平成 20 年 11 月 14 日

平成 20 年度国立大学図書館協会海外派遣事業
Fall 2008 Associates Program, Mortenson Center for International Library Programs,
University of Illinois 参加報告書

神戸大学附属図書館
鳥谷和世

このたび、標記プログラムに参加しましたので報告いたします。

1. 研修期間

平成 20 年 9 月 2 日（火）～10 月 31 日（金）

2. 研修内容

- (1) Lectures: 目録業務、資料の電子化、オープンソースソフトウェアから資金調達まで幅広いテーマに関するイリノイ大学内外から招かれた講師による講義
- (2) Copyright Seminar: eIFL が開発中のオンライン自習コースのパイロット版に参加
- (3) Tours: 主な訪問先は以下の通り
 - 大学図書館（イリノイ大学シカゴ校医学図書館、インディアナ大学医学図書館等）
 - 公共図書館（Westerville Public Library、Urbana Free Library 等）
 - 学校図書館（イリノイ大学附属高校図書館等）
 - 関係諸団体（ALA、LTLIS、OCLC 等）
- (4) Conference Participation: 2008 Illinois Library Association Annual Conference への参加（自国紹介プレゼンテーションを行った）
- (5) Interviews With Librarians: イリノイ大学図書館員への個別インタビュー
- (6) Workshop 等: 一般図書館員向けの研修ワークショップへの参加など

3. 研修効果

プログラムで提供されたセッションは通常の講義形式のものから図書館及び関連団体への訪問、会議参加など多岐に及び、これらを通じてアメリカにおける図書館の現状に関する知識のみならず、図書館をとりまく状況やその背景についても理解を深めることができたと感じている。

また、様々な文化的・社会的背景をもつ他国からの参加者は、所属する図書館の種類も多様で、彼らとの交流を通じて図書館員としての見聞を深めることができた。2 ヶ月に及ぶプログラムとともに参加した彼らとのネットワークは、今後とも貴重な財産として大切に活用していきたいと考えている。プログラム参加者のみならず講師、その他関係者との交流は、海外での英語による情報交換の貴重な経験となり、今後仕事を進めていく上で大きな自信となった。

研究テーマに関しては、イリノイ大学図書館員 4 人にインタビューを行う機会を得た。併せて、今回医学系図書館員の参加者が多かったことと、イリノイ・インディアナ両大学の医学図書館を訪問する機会があったことは、貴重な経験となり、調査研究のための材料を収集することができ、充実した調査研究が行えた。

平成 20 年 7 月 23 日

平成 20 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書
- Science, Technology and Public Engagement of Library Preservation -

筑波大学附属図書館
徳田 聖子

このたび、平成 20 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により British Library および British Library Centre for Conservation 等を訪問したので以下のとおり報告する。

1. 訪問期間

平成 20 年 7 月 13 日(日)～7 月 20 日(日)

2. 訪問先

British Library、British Library Centre for Conservation
Wellcome Library (修復スタジオ見学)
University of London Senate House Library (一般利用者として)
Shepherds Bookbinders Ltd (製本資材店)
Khaili Lecture Theatre (London Rare Book School 公開講座: 版と書物史の講義)
St. Pancras Public Library については訪問時にストライキで閉館しており、見学できなかった。

3. 研修調査内容

- (1) New Methods of Cleaning Surfaces of Books and Paper ワークショップ参加
紙資料、革、パーチメント等の修復時に近年使用されている洗浄剤の調製方法や影響について学習した。また参加者から各国の修復施設等の概要について情報を収集した。
- (2) British Library Centre for Conservation(BLCC・(1)の開催会場)見学
BLCC 設立の経緯や開催事業、展示施設や各設備の機能について説明を受けた。
- (3) Digitizing Projects
BL と Microsoft との提携による 19 世紀刊行物の電子化について調査し、OPAC から電子化済の資料等フルテキストへのアクセスを試みた(平成 20 年 7 月現在、館内アクセスのみ可能)。

4. 調査による成果

上記(1)～(3)の研修調査を通して、(1)により紙媒体資料の保存修復に関する科学的な事項の理解に努め、(3)により電子化による代替資料の提供という側面と、電子化した資料や「ボーンデジタル」資料の提供技術の活用状況を知り、さらに(2)によって資料保存という活動と社会との関わりについて考察する手がかりを得た。今後、訪問で得られた情報を元に文献や E-mail 等による継続調査を行い、また学習した事項について理解を深めたうえで、報告をまとめる予定である。

5. 謝辞

最後に、このような機会をくださいました国立大学図書館協会、ならびに快く送り出してくださいました皆様、お世話になりました全ての方々へ感謝いたします。

平成 2 1 年国立大学図書館協会
海外派遣候補者審査結果報告

平成 2 1 年度国立大学図書館協会短期海外派遣について、下記のとおり審査しましたので報告します。

記

調査研究テーマ：

米国大学図書館における図書館サービス測定・評価の活用
(共同調査研究)

派遣候補者：

大阪教育大学学務部学術情報課 図書係長	前川敦子
奈良教育大学学術情報課 係長(情報サービス担当)	赤澤久弥

選考理由：

- 1) 大学図書館の評価及びその活用という調査研究テーマは、国立大学図書館に共通する時宜に適ったテーマである。
- 2) 応募者の図書館勤務経験、論文発表等の実績及び英語能力から判断して、調査研究及びその成果還元についても、十分期待できる。

国立大学図書館協会海外派遣事業 派遣者の活動実績 (平成 21 年 2 月現在)

平成 18 年度 (第 1 回)	広島大学図書館 庄ゆかり
モーテンソン・センター Fall Associates Program 参加	2006/9/6-11/3

1. 講演・発表等

- 2006/12/27 広島大学館内研修発表「モーテンソンセンター等海外研修報告」
- 2007/3/15 広島大学図書館学術講演会「ハイブリッド・ライブラリーの構築をめざして」
報告(2)「モーテンソンセンター Associates Program 参加報告」
- 2007/3/25 大学図書館問題研究会広島支部 支部研究会発表
「モーテンソンセンター Associates Program に参加して: 海の向こうの図書館員
との交流を中心に」
- 2007/9/5, 9/19 平成 19 年度国立大学図書館協会シンポジウム
「若きライブラリアンの海外大学図書館研修: Global Librarian Network の形成を求めて」
講演「イリノイ大学モーテンソン・センターで学んだマーケティングはどう活用できるか」
(西会場: 大阪大学, 東会場: 筑波大学)
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/sympo/sho.pdf>
- 2008/10/7, 11/10 平成 20 年度大学図書館職員短期研修
講義「海外研修経験から見た大学図書館経営」
(西会場: 京都大学, 東会場: 東京大学)
<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h20/lib03.pdf>

2. 報告書等

- Oduwole, A.A.; Sho, Y. (2007) Breaking barriers and connecting librarians around the world: Report of an international training program. Library Hi Tech News. 2007, vol. 24, no. 3, p. 26-28, doi:10.1108/07419050710755090.
<http://www.emeraldinsight.com/10.1108/07419050710755090>, (参照 2009-02-16)
- 庄ゆかり. イリノイ大学モーテンソンセンター2006年国際図書館員研修プログラム. 広島大学図書館報 Liaison. 2007, no. 32, p. 11-13. <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/kampo/3200.pdf>, (参照 2009-02-16)
- 庄ゆかり. イリノイ大学モーテンソンセンターFall 2006 Associates Program 参加報告. 大学図書館研究. 2007, no. 80, p. 108-120.
- 庄ゆかり. イリノイ大学モーテンソン・センターで学んだマーケティングはどう活用できるか. 平成 19 年度国立大学図書館協会シンポジウム予稿集. 2007.
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/sympo/sho.pdf>, (参照 2009-02-16)

平成 19 年度 (第 2 回)

大阪大学附属図書館 大塚志乃

モーテンソン・センター Fall Associates Program 参加

2007/9/4-11/2

1. 講演・発表等

- 2007/12/15 第 95 回京都大学図書系職員勉強会 (仮称) (阪大・京大合同勉強会)
「イリノイ大学モーテンソンセンター Associates Program に参加して」
<http://kullibrarians.hp.infoseek.co.jp/95th/95th.pdf>
- 2007/12/28 平成 19 年学外研修等成果報告会
(大阪大学附属図書館)
「イリノイ大学モーテンソンセンター Associates Program に参加して」
- 2008/11/6 平成 20 年度大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」
(大阪市立大学学術情報総合センター)
研修 6「海外の大学図書館事情」

2. 報告書等

大塚志乃. イリノイ大学モーテンソンセンター2007 国際図書館員研修プログラムに参加して.
大阪大学図書館報. 41 巻, 3 号, 2008.3, p.10-11.
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/kanpo/41-3.pdf>, (参照 2009_02_20)

大塚志乃. イリノイ大学モーテンソンセンターFall 2006 Associates Program 参加報告.
(「大学図書館研究」投稿中)

平成 20 年度 (第 3 回)

神戸大学附属図書館医学分館 鳥谷和世

モーテンソン・センター Fall Associates Program 参加

2008/9/2-10/31

1. 講演・発表等

- 2008/12/16 神戸大学図書館内報告「国立大学図書館協会海外派遣研修の報告」
- 2009/2/21 大図研兵庫支部2月例会
「モーテンソンセンター(イリノイ大学)での研修の報告」

2. 報告書等

鳥谷和世. アメリカ大学図書館の息吹に触れる : イリノイ大学モーテンソンセンター
Fall 2008 Associates Program に参加して. 大学図書館研究. (2009/2/2 投稿 85 号掲載予定)